

令和2年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
人間文化学部 国際文化学科 (地域創生学部・ 地域文化コース)	植村 広美 鄭 銀志	R2.12.9(水) 10:40~12:10	Teamsにおける オンライン会議	<p><b>テーマ：</b> オンライン授業における効果的なアクティブ・ラーニングの実施に向けた検討</p>
				<p><b>実施目的：</b> オンライン授業における教育効果の高いアクティブ・ラーニングのあり方を模索し、教育内容を改善するための組織的な検討を試みる。</p>
				<p><b>キーワード：</b> オンライン授業、アクティブ・ラーニング、自修支援</p>
				<p><b>実施内容：</b> 各教員が今年度のオンライン授業において、どのようなアクティブ・ラーニングを実施してきたのか、また、その際にどのような工夫を施し、それが学修状況にどのような変化を及ぼしているのか、ということについて全教員による実践報告を行う。さらに、質疑応答・意見交換を行い、オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングという新しい教育方法のさらなる改善に向け、各教員が今後より具体的な方策が講じられるような提言を導き出すことを目指す。</p>
地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース  人間文化学部 健康科学科	石橋ちなみ 岡田 玄也 鍛島 秀明 山縣誉志江 松本 拓也 杉山 寿美 山岡 雅子 森脇 弘子	令和2年4月~令 和3年3月 (月に1回程度)	広島キャンパス 会議室 各研究室 (オンライン会 議を含む)	<p><b>テーマ：</b> ハイブリッド授業への組織的取り組み</p>
				<p><b>実施目的：</b> 実施主体の学科・コースでは、実験実習が多く、オンラインと対面による組織的教育を効果的に実施する必要がある。そこで、ハイブリッド授業の環境整備と授業方法の組織的検討を試みる。</p>
				<p><b>キーワード：</b> 実験実習、ハイブリッド授業、組織的教育</p>
				<p><b>実施内容：</b> 前期は、オンライン授業についての情報共有の会・研修会を開催し、さらに対面授業にむけて環境の整備を検討する。 後期は、ハイブリッド授業での対面授業の実践報告と授業改善にむけた質疑応答・意見交換を行い、具体的な方策について検討する。 これらより、健康科学コースおよび健康科学科の実験実習におけるハイブリッド授業の環境整備と効果的な授業方法を組織的に検討し、教育改善に活かす。</p>
経営情報学部 経営学科	朴 唯新 村上 恵子	R2.4.15(水) 10:40~12:10  R2.5.13(水) 10:40~12:10	広島キャンパス 各研究室 (オンライン)	<p><b>テーマ：</b> 教育の質を確保するオンライン授業の実施方法の検討</p>
				<p><b>実施目的：</b> 履修者数が比較的多い経営学科開講科目におけるオンライン授業の質の向上及び改善を目的として、各教員の取り組み内容を共有し、オンラインでの教育・指導方法を検討する。</p>
				<p><b>キーワード：</b> オンライン授業、教育方法、情報共有</p>

令和2年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
経営情報学部 経営学科	朴 唯新 村上 恵子	R2.4.15（水） 10：40～12：10  R2.5.13（水） 10：40～12：10	広島キャンパス 各研究室 （オンライン）	<p><b>実施内容：</b> 履修者数が比較的多い経営学科専門授業科目を中心に、オンライン授業の方法や注意点について学科全教員で意見交換し、効果的な教育・指導方法を検討する。 具体的には、毎月1回の学科会議に合わせて、全教員がオンライン授業の方法やオンライン授業を行う上での注意点、ユニークな取り組み等について報告する。特に課題の出し方や双方向対話型学修の取り入れ方、学生とのコミュニケーションの取り方等を報告する。報告後は質疑応答を行い、各教員が参考とすべき点、工夫や改善が望まれる点などについて、全教員で意見を交換する。</p>
経営情報学部 経営情報学科	広谷 大助 佐々木宣介 重丸 伸二 富田 哲治	9月30日（水） 2月9日（火） 2月10日（水）	講義室 会議室等	<p><b>テーマ：</b> 経営情報学専門演習におけるオンライン中間発表会による教育効果の評価と検証</p> <p><b>実施目的：</b> 学科で令和元年から導入している中間発表会を、本年度オンラインで行うための対応を行った上で内容を充実させ、振り返りシート及びルーブリックを利用して自身の研究内容について振り返り・自己評価をすることで、研究状況および成果を客観視して把握し経営情報学専門演習の更なる充実を図り、かつ学生の満足度を更に高めることを目的とする。</p> <p><b>キーワード：</b> オンライン実施、ルーブリック、振り返りシート、自己評価</p> <p><b>実施内容：</b> 経営情報学科では卒業論文に相当する経営情報学専門演習において3年次にゼミに配属され、4年次2月に実施される卒業論文発表会に向けて、各研究室で指導が行われている。令和元年度から、新たに学科全体で中間発表会を導入し、実施内容や評価基準の統一を図っている。今年度は、コロナ禍の影響を受けて、昨年度のような対面での実施が困難であるため、Microsoft Teams を利用したオンライン実施を計画する。オンラインでもできるだけ対面に近い形態となるように、かつ、オンラインであることの特性を活かせるように発表会の運営を行う。オンライン中間発表会でのプレゼンテーション、近い専門分野の教員との議論、専門性の異なる教員や他の学生からの質問への回答や今後の課題等を振り返りシートにまとめ、自身の研究の振り返りを促す。さらに、ルーブリックを用いて自身の卒業研究への取り組みに対する自己評価を行うことで、解決すべき課題が明らかになり、各学生が経営情報学専門演習に取り組む意欲の向上が期待される。</p>
生物資源科学部 地域資源開発学科	荻田信二郎 原田浩幸 森永力	2020.6.18 2020.8.2 2020.9.14 2020.10.16 2020.11.24	オンライン HP 2201教室	<p><b>テーマ：</b> 異文化体験を効果的にするための事前学習プログラムの開発</p> <p><b>実施目的：</b> 当学科では2年次配当の必修科目「国際異文化農業体験研修」において、全員が海外での研修を行う。効果的に研修を行うには、事前学習として、どのような段階を踏んで教育するのが良いのか、教員全員でケアしながらグローバル感覚を育てる。 R2年度「国際交流推進事業（短期受入プログラム事業）」に、“新カリキュラム「国際異文化農業体験研修」に対する目的意識の定着”が採択されたので、実践しながら成果を出す。</p> <p><b>キーワード：</b> グローバル；コミュニケーション；異国文化理解</p>

令和2年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
生物資源科学部 地域資源開発学科	萩田信二郎 原田浩幸 森永力	2020. 6. 18 2020. 8. 2 2020. 9. 14 2020. 10. 16 2020. 11. 24	オンライン HP 2201 教室	<p><b>実施内容：</b>            場所はベトナム <u>Thai Nguyen University of Agriculture and Forestry (TUAF)</u> とする。            → 先端的な農業の研修ができる情報を収集し、協議の結果 研修場所とした。            R2 年度の取り組みとして、本学と TUAF 協働で Web 会議や交流を企画する。教員にとっても海外校との交渉は、良い経験となる。また、得た情報を学生にいかにかわかりやすく周知するか、アンケートをとりながら検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を提供し、オンラインでの学生 - 教員間のコミュニケーション活性化を目指すために、「国際異文化農業体験研修プロジェクト」の Teams サイトを立ち上げ、研修前のアンケートを Forms で行う。</li> <li>・外務省海外安全ホームページ、在ベトナム日本大使館、在日ベトナム大使館 HP などの閲覧等による学修を促す。</li> <li>・ベトナム Thai Nguyen 大学の Dr. Hoang Thi Bich Thao 先生をお招きして Zoom で双方向接続、英語での講義を行って、異文化や海外の大学のことを身近に知る機会を企画する。</li> </ul>
生物資源科学部 生命環境学科 生命科学コース	齋藤 靖和	9/30, 11/25, 12/2, 12/9, 12/16, 1/13, 1/20	大講義室, 各研究室, オンライン オンデマンド 等	<p><b>テーマ：</b> コースで学べる分野の理解と学びへの意識づけ～コース選択および研究室配属を見据えて～</p> <p><b>実施目的：</b> コース選択及び研究室配属を1年次から意識させ、コース選択および卒業研究へ向けた行動を初年次からスムーズに開始できるようサポートする。</p> <p><b>キーワード：</b> 分野理解, 学びの意識づけ, 将来像</p> <p><b>実施内容：</b>            本年度より新たに立ちあがった生命環境学科には、生命科学コースと環境科学コースの2つのコースが存在している。カリキュラム上、1年生の段階では共通科目も多く、所属コースで学ぶことのできる具体的な専門分野や研究領域、それらの違いなどについてふれる機会はほとんどない。一方で、コースでの学修・研究内容を理解し、将来像を考えることは1年次以降の学びに対する意識づけやモチベーションにとって重要である。そこで、学生の分野理解と学びへの意識づけをサポートする機会を設けることを本テーマの目的とする。また、経過選択枠で入学した学生にとって、両コースの学修内容や所属教員についてじっくりと知る機会を作ることは、自身のコース選択において大事な判断材料となるはずである。            具体的には、生命環境科学基礎セミナー（1年3,4Q必修）の前半を環境科学コース、後半を生命科学コースが担当とし、それぞれのコース特性を踏まえた内容で1年生のこれからの学びやその方向性をナビゲートする。本活動の実施主体となる生命科学コースでは、学修分野や研究領域、将来像、そして所属教員自身を理解してもらうことを目的に、各教員がそれぞれの見地から研究分野やその魅力、1年生へのメッセージ等を含んだオンデマンド資料を作成し、学生に視聴させ、学生のコース理解を促し、興味を抱いてもらいたいと考えている。            本来なら対面式により、教員の熱量も併せて伝えたいところだが、長時間の連続講義では集中力が続かないこと、授業スケジュールが年末年始を挟んでおり、新型コロナウイルス感染予防の観点から、本年はオンラインオンデマンド方式とする。オンデマンド方式とすることで、好きな時に視聴でき、気になる資料は繰り返し視聴もできるというメリットも生じる。</p>

令和2年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 環境科学コース	大竹 才人	年 10 回程度	teams 会議, 及 び 1701 号室・ 各教員研究室	<p>テーマ： 新カリキュラムにおけるキャリア形成の意識付けと体系化</p> <p>実施目的： 新1年次より始まる新カリキュラムにおいて、環境と社会との関りを理解させて将来への自律的なキャリア形成を目指したカリキュラムの設計を行う。</p> <p>キーワード： オリゼミ, 生命環境基礎セミナー, キャリア形成</p> <p>実施内容： 新カリキュラムの施行にあたり、キャリア形成に関わる科目群について、その学びの一連の体系化と設計を行なう。今回は、昨年度までに実施してきた実績を参考にする。はじめにオリゼミにおいて、環境と地域との関係について、地域の方との交流を含めた学外研修の内容を検討する。これを踏まえて、後期に新たに開講する生命環境基礎セミナーに接続させる。この講義では環境と地域との関係について、外部講師を招聘して講義をして頂くことを計画する。行政、民間企業、地域自治体のそれぞれから、環境への取り組みについてご講演を頂き、学生と共に議論することで理解を深める内容を企画する。また、この時のアンケート結果をフィードバックすることで、2年次に開講される環境科学セミナーへの接続と、継続的なFD活動、及び環境と社会との関係の意識付けのもと、学生の自律的なキャリア形成に結び付けたい。</p>
研修部門 保健福祉学部 委員会	細羽竜也 吉田和美 佐藤勇太 吉岡和哉 渡辺眞澄 大下由美	令和3年2～3月 にかけての1コマ	三原キャンパス (オンライン研修)	<p>テーマ： コロナ禍における医療・福祉従事者養成のための実習の取り組みと課題</p> <p>実施目的： 各学科における実習代替の方法、課題を共有し、互いに今後の教育に役立てる。</p> <p>キーワード： 専門職養成教育, オンライン実習（ハイブリッド型実習も含む）、行動型学修</p> <p>実施内容： 本学部では、すべての学科で専門職の実習が必修科目とされている。今年度、新型コロナウイルス感染拡大防止の目的で、学外の実習協力施設での実習が中止となったり、大学附属診療所での学内実習の形態が大きく変更された。このような状況のもと、各学科では、実習の制限はむろん、対面での取り組みも制限しながらも、関係機関と連携し、履修学生への実習プログラムを実施した。 令和2年度では、今年度の実習プログラムに採用した実習代替の方法や実施の際の課題を学科間で共有し、互いに今後の教育に役立てることを目的に研修を行うことにする。 具体的には、各学科の代表者が実習内容について、協力施設の実習指導者や履修学生の声を伝えるなどの工夫を行いながら簡潔に報告し、実習プログラムの成果と課題を学科間で共有することにする。また相互の理解を深めるために、各学科の報告の後に、参加教員間での意見交換を行う予定である。</p>

令和2年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 看護学科	教育課程検討会 青井 聡美	毎月1回	Teams PUH_教育課程検討会	<p>テーマ：教育内容の充実</p> <p><b>実施目的：</b>看護実践能力の育成に向けて学修成果の把握と可視化を図り、学生自身が主体的に学修できるツールを作成する。また、看護教育の評価システムを構築し、教育の質の向上と質保証を図る。</p> <p><b>キーワード：</b>カリキュラム評価 ポートフォリオ 国家試験対策 学修支援アドバイザー</p> <p><b>実施内容：</b></p> <p>①看護技術ポートフォリオの作成 ②カリキュラム評価の検討 ③学修支援アドバイザー（卒業生）の運用方法の検討 ④国家試験対策（国家試験模試を除く）の検討（看護師・保健師）</p>
保健福祉学部 看護学科	実習検討会 吉田和美	<p>テーマⅠ 年1回書面開催 (令和4年4月)</p> <p>テーマⅡ 毎月1回</p>	<p>テーマⅠ 書面発送</p> <p>テーマⅡ Teams オンライン会議</p>	<p>テーマ：</p> <p>テーマⅠ：実習指導担当者との前年度実習の成果と課題・今年度臨地実習に関する情報共有 テーマⅡ：臨地実習教育の充実</p> <p><b>実施目的：</b>実習にかかわる教員と実習指導担当者で情報共有を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握、共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質の向上を図る。</p> <p><b>キーワード：</b>臨地実習、教育方法、情報共有</p> <p><b>実施内容：</b></p> <p>テーマⅠ：新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、実習指導担当者協議会は書面開催とする。前年度実習の成果と課題・今年度臨地実習に関する情報共有を行う。 テーマⅡ：年間の臨地実習に関わる情報を教員間で共有し、学生指導や実習環境についての検討を行う。また、年間実習計画の調整および見直しを実施する。臨地実習で求められる感染症予防対策（COVID-19、インフルエンザ等）、事故対策、個人情報及びプライバシーの保護に関して必要なマニュアルや書類の更新、書類管理の方法について検討する。令和3年度カリキュラムの変更点に応じた実習要綱の作成と学生のレディネス形成を促す教育方法の検討を行う。</p>
保健福祉学部 看護学科	看護学科 FD担当 吉田 和美	<p>令和2年 9月26日（土） 13:30-17:30</p> <p>令和2年度後期 2-3回</p>	<p>Teams オンライン会議</p> <p>Teams オンライン会議</p>	<p>テーマⅠ：パフォーマンス評価と評価指標（ルーブリック）の作成方法に関する学修</p> <p><b>実施目的：</b>卒業時の到達目標（DP）の達成に向けて、看護実践能力を育む学修方法と、それら进行评估するためのパフォーマンス評価と評価指標（ルーブリック）の作成方法に関する学修をおこなう</p> <p><b>キーワード：</b>授業設計、パフォーマンス評価、組織的教育</p>

令和2年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 看護学科	看護学科 FD 担当 吉田 和美	令和2年 9月26日（土） 13:30-17:30  令和2年度後期 2-3回	Teams オンライン会議  Teams オンライン会議	<b>実施内容：</b> ①パフォーマンス評価の進め方（パフォーマンス課題やルーブリックの開発）に関する研究に先駆的に取り組まれている京都大学教育学研究科教育学環専攻教育・人間科学講座教授の西岡加名恵氏を招致して「パフォーマンス評価の考え方・すすめ方」の教授を受け、教授された内容を自己の授業への取入れを検討するワークショップの開催を行う。 ②ミニセミナーを開催し、看護学科内でのパフォーマンス課題を取り入れた授業や評価指標の実践例を共有し、看護実践能力を育む学修方法や評価方法の導入に関する情報交換を促進する。
保健福祉学部 理学療法学科	佐藤勇太	(前期) 毎週水曜日 4限 (後期) 毎週水曜日 1限	Teams 内	<b>テーマ：</b> 「学生の動向を把握・共有する」、「コロナ禍での講義の形態・方向性を吟味する」 「各教員の研究領域の紹介」 <b>実施目的：</b> 「要支援学生の指導・援助の一貫化を図る」、「コロナ禍での授業形態・方向性の共有および改善」、「最新の知見を踏まえた専門教育の充実を図る」 <b>キーワード：</b> 学生生活, 国家試験, 指定規則 <b>実施内容：</b> (1)「学生の動向を把握・共有する」について オンライン講義等の導入により、対面の機会が少なくなることに伴い、各チューターを中心にこれまで以上に学生の動向を把握するよう努める。また、各学生の情報を共有することで、指導・援助の一貫化を図る。各学生の状況は、毎週の学科会議にて各学年担当のチューターから報告される。配慮が必要な学生については、各担当教員を中心に詳細な報告・情報共有をし、協議を行う。臨床実習の時期には、臨床実習指導者や教員が連携し、学生状況の把握・共有を図る。 (2)「コロナ禍での講義の形態・方向性を吟味する」について オンライン講義等の導入により、これまでの講義形態とは異なる教授方法の知識・技術が必要となることも踏まえ、専門教育のさらなる充実を図るために、講義内容、学生指導のあり方について検討する。また感染予防対策をより効果的に実施していくための情報共有を行う。学科会議において、国家試験模試の結果を共有し、国家試験に向けた講義等に活用する。学科会議に合わせて月1回程度、各種教授法の実践例紹介などを通して情報共有し、今後の講義を吟味する。また、指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築、新施設基準に即した教育物品の購入・充実化を適宜行っていく。 (3)「各教員の研究領域の紹介」について 各教員の研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することを通じ、研究・教育能力の向上を図る。学科会議に合わせて月1回程度、各教員の研究紹介などを通して実施予定である。 (1)(2)(3)の内容は、個人情報を含む学科特有の内容についての議論が必要である。このため、公開は、取り扱う内容によって判断するものとする。

令和2年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
作業療法学科	吉岡 和哉	12月から3月 第3水曜日 12:30~13:00	リアルタイム オンライン (Teams)	<p><b>テーマ：</b> 作業療法養成教育内容および臨床実習教育の充実</p> <p><b>実施目的：</b> オンライン授業や教育内容の振り返りを行い学内教育の向上を行う。 また、臨床教育を行う病院や施設との連携できることで養成教育の充実を図る。</p> <p><b>キーワード：</b> オンライン授業の実施方法、臨床実習教育、国家試験対策</p> <p><b>実施内容：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オンライン授業の実施方法について情報共有 オンライン授業の実施方法について情報共有を行い、今後の授業実施方法についての課題や利点などについて検討を行う。</li> <li>2. 臨床実習教育 指定規則の変更に対応できる実習形態の変更とともに実習先の病院や施設と連携を図りながら、よりよい臨床実習教育の充実について検討を行う。</li> <li>3. 国家試験対策 国家試験全員合格に向けて学科教員がそれぞれの役割を担い、学修をサポートできる体制を構築する。 学生の学修状況を共有しながら、取り組みの効果を検討していく。</li> </ol>
コミュニケーション 障害学科	渡辺 眞澄	令和2年度 全期間	三原キャンパス 1309/1310 演習室	<p><b>テーマ：</b> 年間を通じた学科での教育改善活動</p> <p><b>実施目的：</b> 教育の質の向上を目的として、各教員が行っている研究・教育活動、実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。さらに、教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。</p> <p><b>キーワード：</b> 教育の改善、研究活動情報共有、伝達講習</p> <p><b>実施内容：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員が取り組んでいる研究活動の紹介と議論</li> <li>2. 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有</li> <li>3. FDに関連した学外等で実施された研修内容の共有</li> </ol>
人間福祉学科	大下由美	令和2年/令和3 年	三原キャンパス 内/Teams上	<p><b>テーマ：</b> 社会福祉士・精神保健福祉士養成教育のスキル向上を図る</p> <p><b>実施目的：</b> 学科教員内で教授スキルの共有とレベルの向上を目指す</p> <p><b>キーワード：</b> アクティブ・ラーニング、オンライン教授法、ピア・レビュー</p>

令和2年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
人間福祉学科	大下由美	令和2年／令和3年	三原キャンパス内／Teams上	<p><b>実施内容：</b>本年度人間福祉学科では、以下の2つの活動を行う。</p> <p>(1) オンラインでの授業スキルの共有と向上            学科教員のオンラインでの授業スキルの共有と向上に向けて、以下の活動を行います。            ①福祉実習と精神実習の代替措置プログラムの実施内容とその成果を相互に振り返り、オンラインで工夫した教授方法と学生のアクティブ・ラーニングへの成果を共有する。            ②オンラインでの授業スキルの相談窓口“オンライン・マルシェ”を立ち上げ、基本的なスキルの共有や課題解決をはかる。</p> <p>(2) ピア・レビュー            今年度は、社会福祉実習及び精神保健福祉実習をオンラインで実施することになる。両プログラムの授業は、教員間相互に授業内容及び教授法を振り返りながら行う。            (社福)9月15日～10月9日まで、実習代替授業プログラムを実施。高齢者分野と児童分野で担当教員は別れ、教授内容を相互に吟味し、授業終了後は振り返りを行う。            (精神)8月17日～9月4日で行った実習代替授業プログラムの内容と教授方法について、各日の担当教員間で、事前事後の相互レビューを行い、その内容の吟味と学生の主体的な学びにつながる教授法を明らかにし、翌日の授業プログラムの実施内容や教授方法に反映させるべく、教員間の相互レビュー活動を通して行う。</p>
全学共通 教育部門	岡田 高嘉	令和2年度 授業期間中	全学	<p><b>テーマ：</b> 大学基礎セミナーⅠの全学的な実施</p> <p><b>実施目的：</b> 新課程における「大学基礎セミナーⅠ」の授業目標や内容を全学的に統一し、着実に実施することで、大学教育で必要となる種々のスキルを学生に身に付けさせ、学生の効用を高めることを目指す。</p> <p><b>キーワード：</b> アカデミック・スキルズ、アクティブ・ラーニング、大学生生活</p> <p><b>実施内容：</b>            全学共通教育の趣旨に照らして、「大学基礎セミナーⅠ」の授業（科目）の目標や内容を全学的に共有し、実施方法や成績評価方法をできるだけ全学的に統一し、それをもって本学のすべての学生に、学科（コース）を問わず、共通したスキルを十分に身に着けさせることを目指す。            そのため、各々のキャンパスから1名ずつキャンパス代表者を選任して、キャンパス代表者会議を開催する。このキャンパス代表者会議において、授業計画や内容、実施方法、成績評価方法について協議を行い、また授業運営上の課題についても随時協議する。協議の成果は、キャンパス代表者を通じて、各担当教員に周知し、全学的な共有を図る。            毎週、授業内容に関して、学生の理解度又は到達度を図る調査（アンケート）を実施する。調査結果は速やかに担当教員にフィードバックして、情報共有を図ると共に、学期中の授業改善を促す。</p>